

二国間クレジット制度（JCM）の更なる促進に向けたセミナー
2025年1月15日

クレジット動向と世界全体の取り組みについて ～ COP29決定とJCM ～

三井物産戦略研究所
本郷 尚



COP29 : “ファイナンスCOP”と排出量取引

- NCQG: New Collective Quantified Goal on climate finance
 - Calls on all actors to work together to enable the scaling up of financing to developing country Parties for climate action from all public and private sources to at least USD 1.3 trillion per year by 2035.
 - Parties taking the lead, of at least USD 300 billion per year by 2035 for developing country Parties for climate action.
- ◆ Article 6 of the Paris Agreement (Emissions Trading)
 - Article 6.4 – Mechanism
 - **Requires Supervisory Bodies to consider methodological guidance**, etc.: baseline (including downward revision), additionality, leakage, non-permanence, and monitoring after the crediting period.
 - **Baselines and monitoring methodologies should be revised** when using the CDM.
 - Supervisory Bodies to consult with stakeholders
 - Article 6.2 - Guidance
 - **Guidance on how and what to submit to UNFCCC** on transfer of emission reductions (e.g., consistency with long-term goals, stakeholder involvement in policy development, baseline setting, assessment of leakage and non-permanence, etc.)
 - **Review of submissions**: automatic consistency check, consistency review by Article 6 technical experts
 - Voluntary contribution to Adaptation Fund

6条決定の各市場への影響

市場	主な影響	留意点・今後の課題
6条2項（JCM）	・ UNFCCCへの報告内容などルール確定 ・ 両国の主権の確認 ・ 需要が明確、6条4項に比べ運用面の不透明感が少ないなどによりサプライヤーの関心が増大	・ 自国の削減目標優先のためクレジット輸出を制限の可能性も。⇒二国間の政策対話が重要に。 ・ 複数の6.2制度が運営されることで方法論などが多様化、ホスト国や事業開発者にとって負担増にも、二国間制度の維持は投資国政府にとってもコスト⇒制度間の調和が必要に
6条4項	・ 検討すべき方法論要素が確定 ・ 旧制度（CDM）クレジットの移行開始。大量のクレジットが供給の可能性もある。	・ 追加性、ベースラインの見直し、永続性などの基準、ツール、ガイダンスは監督機関が検討。テクニカルではあるが政治判断も。大量供給の期待もあるが難航の可能性もある。
途上国国内市場	・ 6条国際取引の活性化で国内カーボンプライシング整備の後押し	・ 自国削減目標達成と投資促進のための輸出とクレジットの使い分けの政策が必要に。制度整備の遅れはクレジット輸出の遅れに。⇒国際取引の有用性の説明が必要に ・ 高削減コスト事業のみ輸出可となる可能性も
ボランタリー市場	・ 6条ルール整備で二重使用回避のルート確立	・ 排出企業の関心が規制遵守にシフト、需要減の可能性も。⇒ボランタリー市場の再構成の検討へ ・ 例外は連邦制度不在の米国か。

パリ協定第6条を巡って - 民間視点

- ◆ EUの「6条排出量取引は削減目標強化のために」との方針が交渉の難航の理由の一つか。
- 第6条4項はメカニズム、第6条2項はメカニズムに対するガイダンスとの位置づけで、落着。
- 第6条4項：方法論についてのガイドラインは合意できなかったものの、検討すべき事項が確定。CDM移行では追加性の再確認など。「テクニカルだが政治的判断が必要」との意見も。
- 第6条2項：UNFCCCに報告すべき事項などが盛り込まれた。各項目の評価についてはホスト国の判断（6.4ガイドラインは適用されず）
- ◆ 市場関係者は「6条2項が早く動く」との認識へ。JCMに追い風か。
- ◆ 相当調整など発行リスク⇒ホスト国のカントリーリスクにも留意が必要か



UNFCCC 公式サイドイベント（第1週）



Supervisory Body共同議長（EU）

様々な国が取り組む6条2項

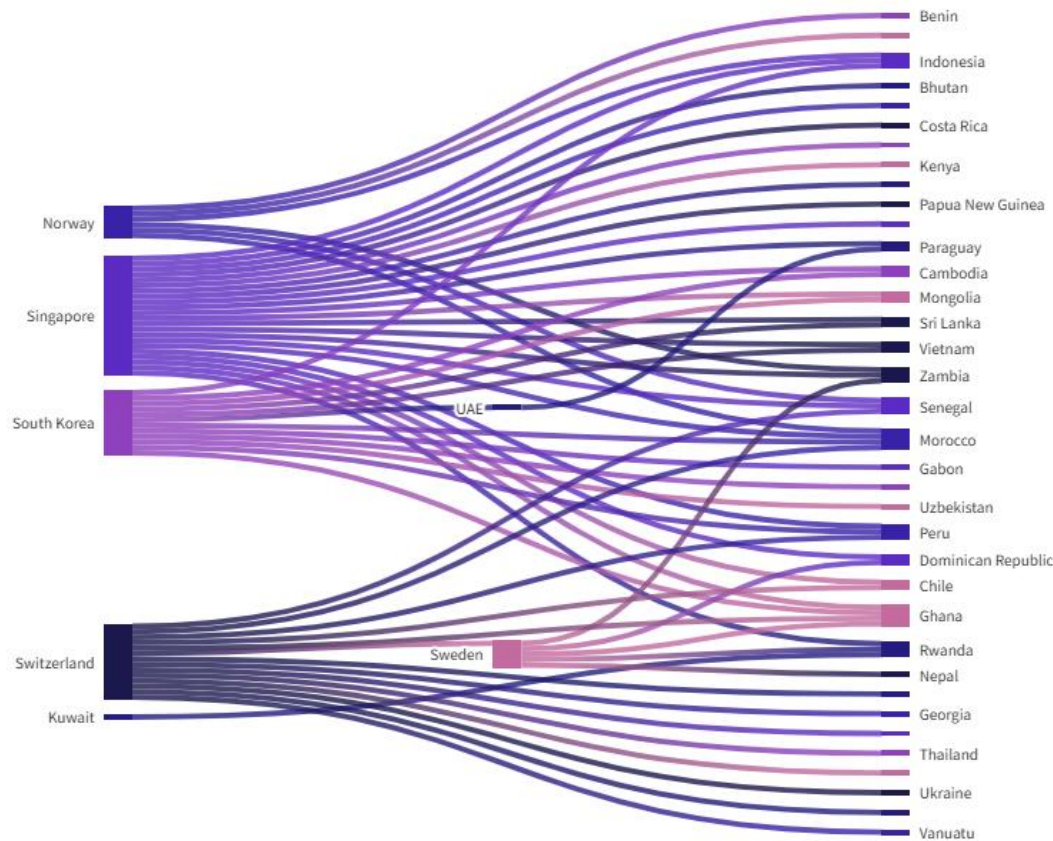
<https://www.ieta.org/>

International Cooperative Approaches Detailed Landscape

Type of Cooperative Approach

A6.2 Bilateral Agreements or MOUs

Cooperation under the JCM



* JCM Agreement is Article 6 aligned International Emissions Trading Association • Source: IETA
Last updated on 21/11/2024

IETA

International Cooperative Approaches Detailed Landscape

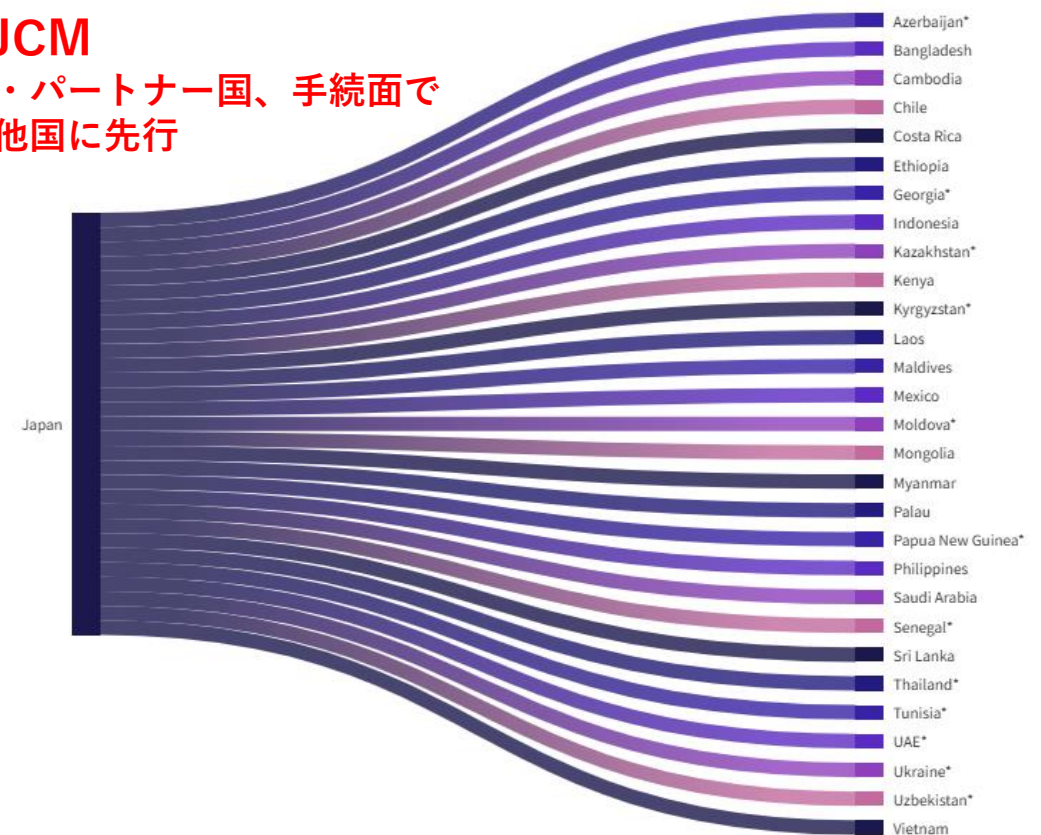
Type of Cooperative Approach

A6.2 Bilateral Agreements or MOUs

Cooperation under the JCM

JCM

・パートナー国、手続面で
他国に先行



* JCM Agreement is Article 6 aligned International Emissions Trading Association • Source: IETA
Last updated on 21/11/2024

IETA

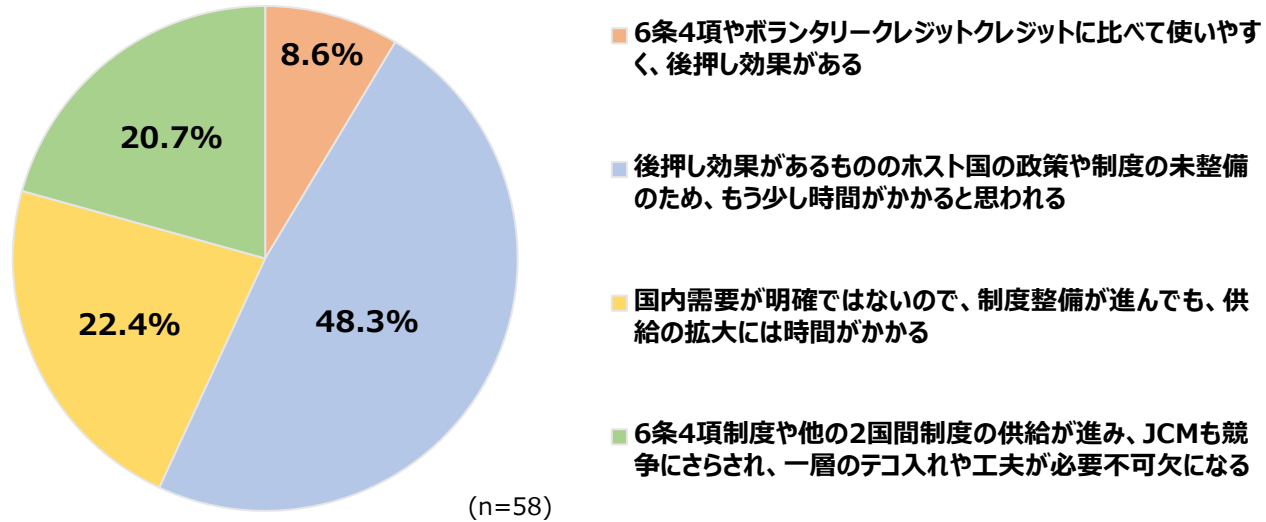


JCMを巡る各国の動向

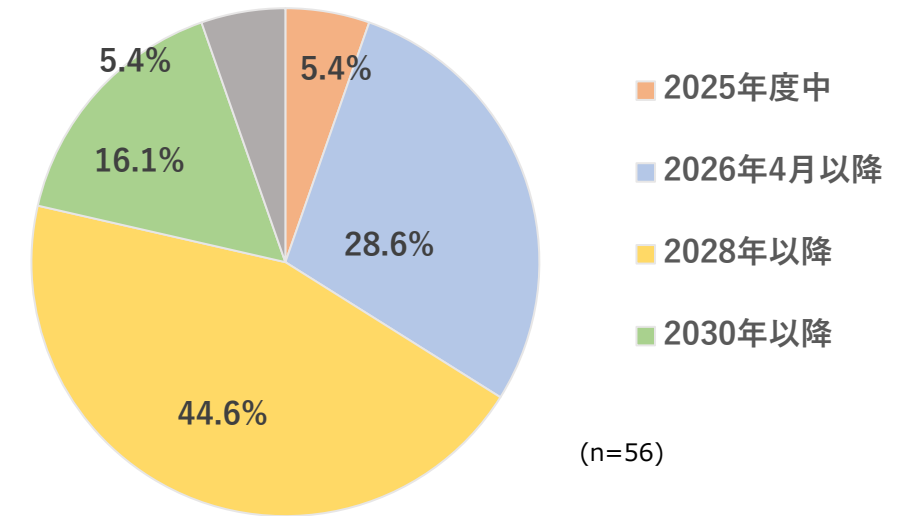
国	最近の状況
タイ	Premium T-VERとJCMの連携。Premium T-VERの承認プロセスの中にJCMプロセスが組み込まれ、発行。クレジットはT-VER登録簿に発行するが、登録と同時に取り消し、日本に移転。方法論はPremium T-VERを利用。タイ側でGreen水素、オフショア風力、CCSなどのでPositive Listを設定。省エネを含むこれ以外の分野ではAdditionality testが必要（＝排除せず）
インドネシア	MRA(Mutual Recognition Agreement) 合意。JCMクレジットはインドネシアクレジット（SPIE）として発行し、日本のNDCとして有効とする。SPIEとして発行されたクレジットはインドネシアのNDCでは有効だが、JCM以外のSPIEがJCMクレジットとして機能するわけではない（片方向）
マレーシア	- MOU合意はAZEC会合（2025年9月）を目指して。 2025年ASEAN議長国。MRVに関してASEAN Common Approachが計画されており、MRVにはT-VERが採用される方向との説明あり。
インド	- MOU交渉進捗なし - 輸出可能なクレジットのリストあり。追加は交渉で可能（担当省庁と交渉）
ブラジル	- MOU交渉進展なし。ルーラ大統領が3月に国賓として来日の計画があり、後押しする可能性あり。 - 大統領がETS法に署名
CORSIA	現状、認定未済。相当調整付ボランタリークレジットの供給量に不安あり。

日本企業の見解（1）

質問1. COP29の結果はJCMクレジット供給に対して
どのような影響を与えると思いますか？

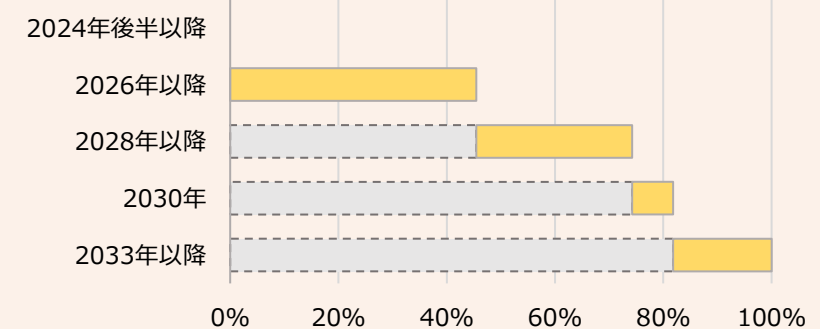


質問2 JCMクレジットの供給が拡大する時期について



出所 2024年12月5日 排出ネットゼロ研究会事務局作成

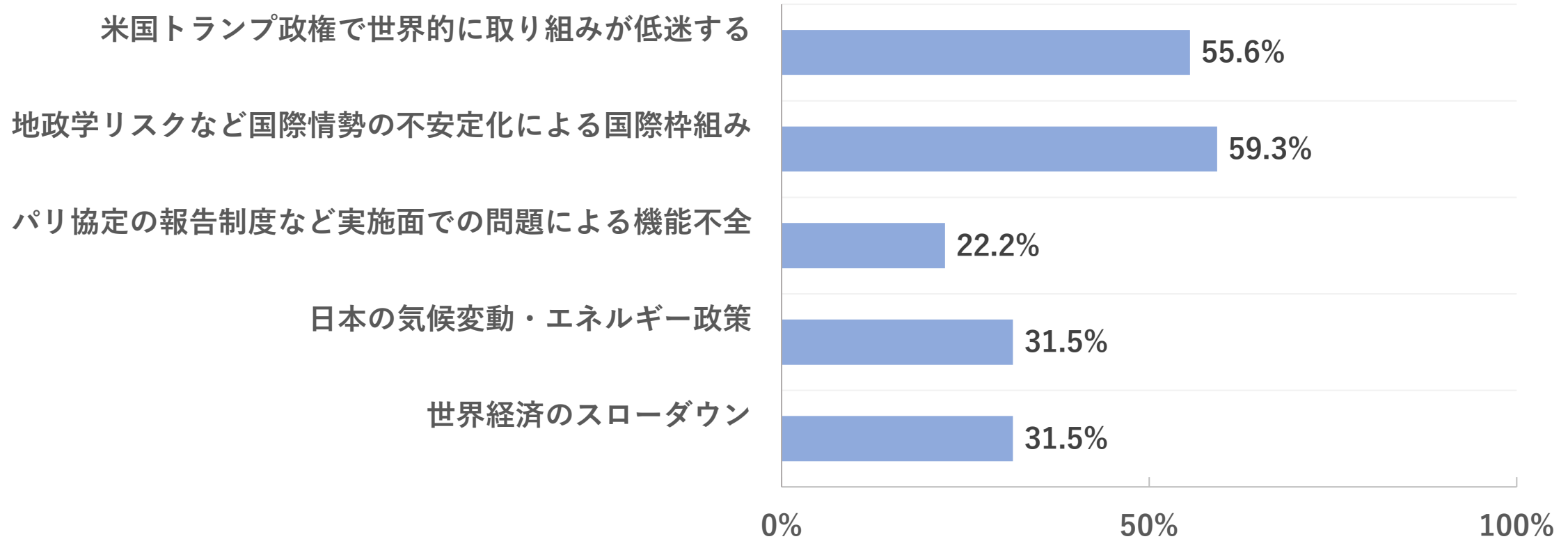
質問3 GX ETSでクレジット利用が活発になるのはいつ頃だと思いますか



2024年3月29日 排出ネットゼロ研究会事務局作成

日本企業の見解（１）

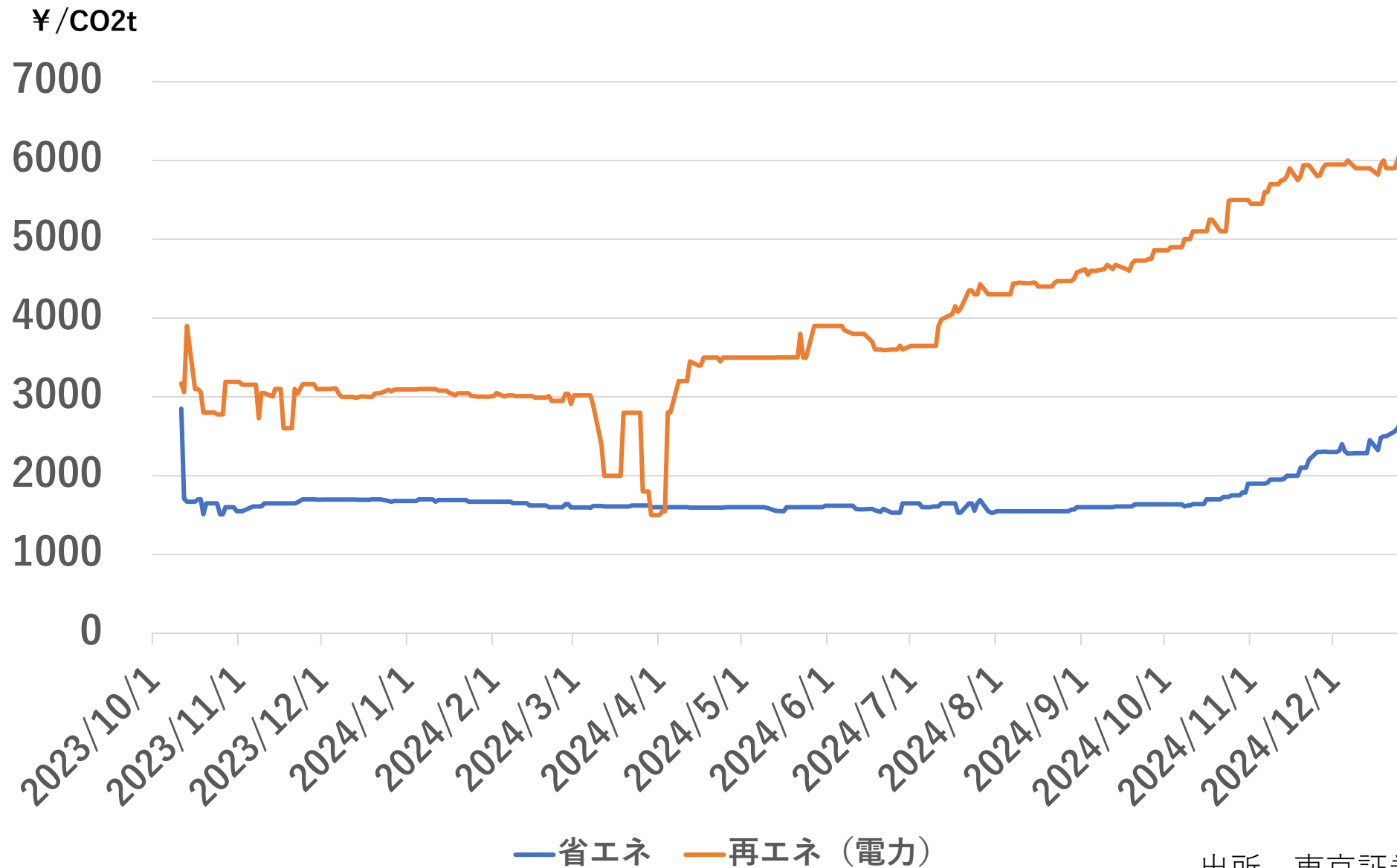
質問３ 気候変動問題への取り組みを進めるにあたっての懸念事項（複数回答）



(n=54)

出所 2024年12月5日 排出ネットゼロ研究会事務局作成

Jクレジット価格推移



COP29でのボランタリークレジット

- ◆ 民間主導の動き;
 - ICVCM (供給側): 人権配慮やベネフィットシェアリングなどに関心が集まる
 - VCMi (需要側): 排出のオフセットか、世界への貢献か、で分かれる意見
- ◆ 英国政府のボランタリークレジット活用のための6つの原則 (Voluntary Carbon and Nature Market Integrity Principle)を発表。実質的にICVCM and VCMiを推奨



We Mean Business Pavilion



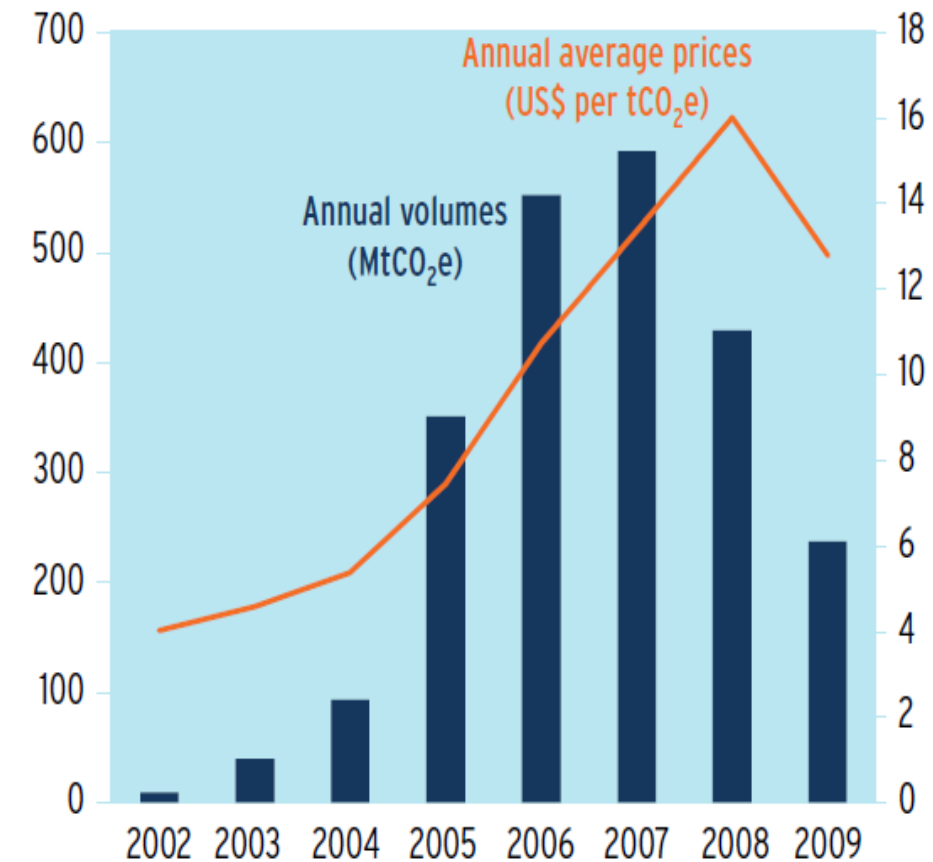
UK Pavilion

排出量取引市場の規模

ETSとオフセット市場



旧CDM市場



Source: World Bank, State and Trend of Carbon Market 2010 edition

参考 ピーク時年間80億ドルの契約¹¹

国際航空（CORSIA）

- ◆ Carbon Neutral Growth（CNG）：排出量を2020年水準に抑える（～2035年）。超過分は燃料とクレジットで相殺する仕組み。CORSIAは確実な需要とみて、低炭素燃料とクレジットの両面でビジネス側の関心は高い
- ◆ 低炭素燃料
 - SAF（バイオベース）が当面中心。高価格のため利用実績は少ない。シンガポールは1%のブレンドを規制化。
 - SAF証書を発行、航空会社と利用者の双方に販売を狙う取り組みもある。ダブルカウント、投機による高騰を警戒との批判もある。IATAはSAF Registryを提案。
- ◆ クレジット
 - パリ協定とのダブルカウンティング回避が条件。相当調整付ボランタリークレジットも利用化だが、量的にはパリ協定6条クレジットへの期待大
 - ボランタリークレジットの相当調整リスク回避のためMIGAが保証スキームを発表。保証料はカントリーリスクプレミアムがベース
 - 2050年ネットゼロ（aspirational Goal）のための制度は今後検討



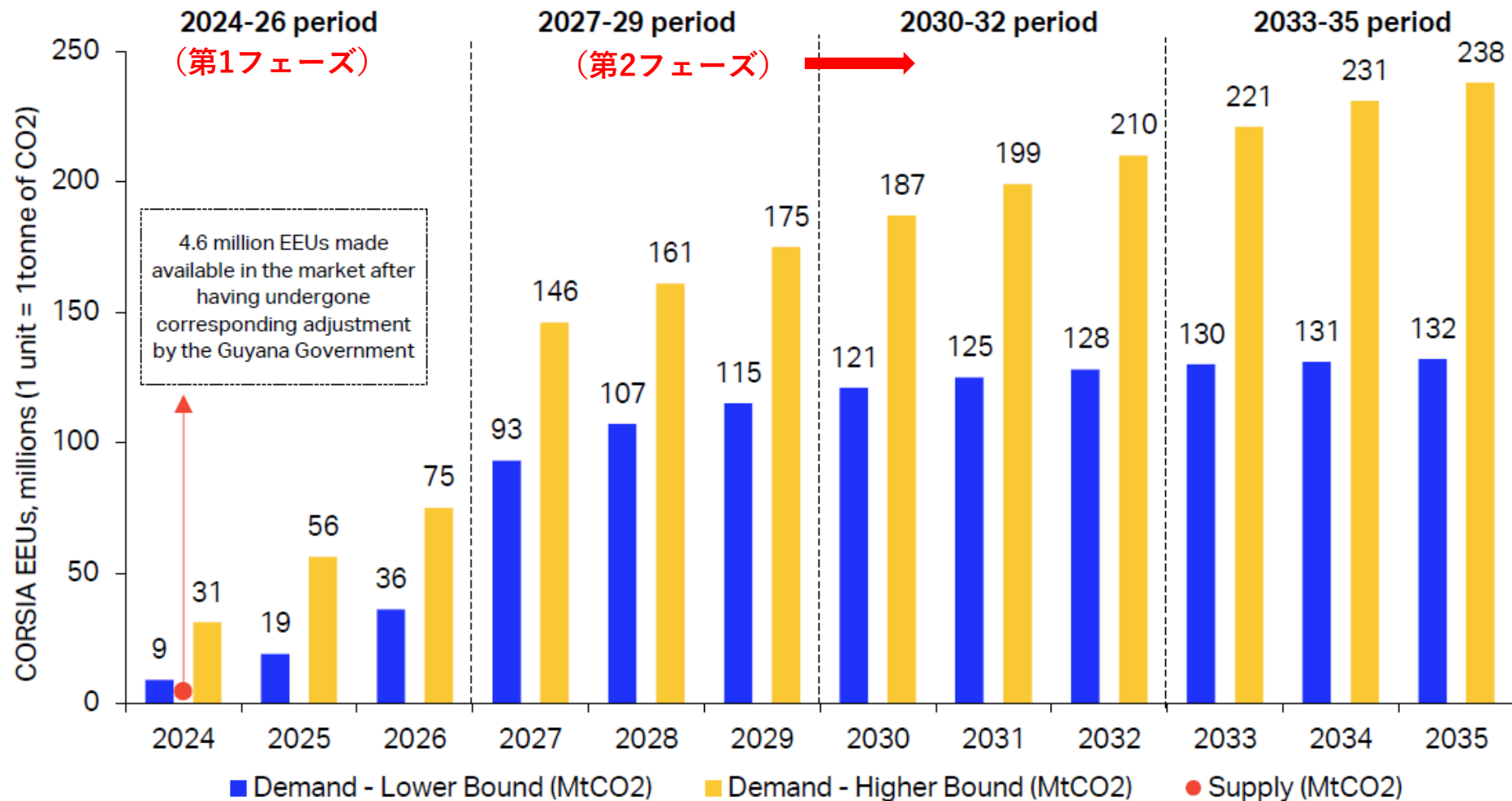
シンガポールパビリオン



MIGA保証のローンチ（世銀パビリオン）

CORSIA – offset demand and supply

- ◆ 第1フェーズではクレジット不足が見込まれる
⇒ パリ協定6条クレジットへの期待大



Source: IATA Sustainability and Economics, from September 2023

ご参考まで

International Emission Trading Association (IETA)

Japan WG – bridge between markets and governments

◆ Agenda of Japan WG (track record)

- Progress of GX ETS and demand for credits
- Procedure of private sector JCM
- Trading platform (Tokyo Stock Exchange)
- COP decision and progress of Article 6
- Feedback of various events by IETA
- Overviews and prospects of national markets e.g. Indonesia
- Code of Best practice of voluntary market
- Collaboration of other regional WG, e.g. ANZO WG

◆ Cooperation with national markets

- Invited Japanese government
- Invited Indonesian government
- Invited Malaysia government
- Online workshop for the cooperation with Chilean market (co-hosted with METI, MOE Chile)



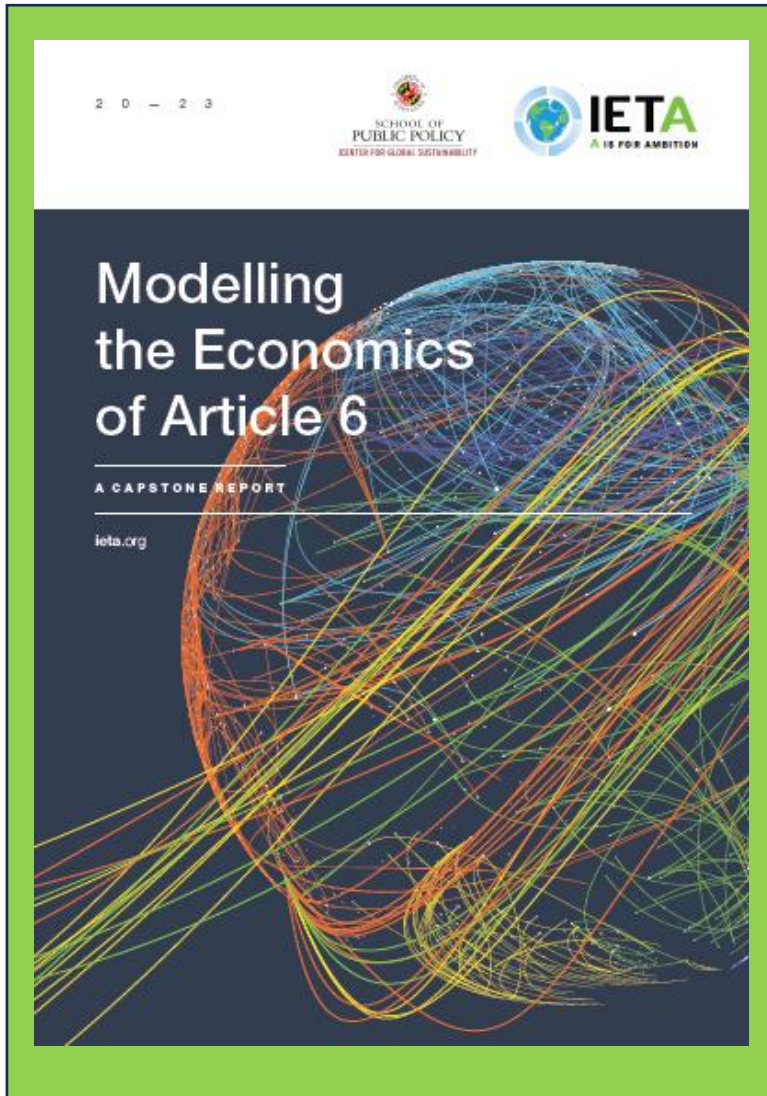
24 Oct. 2023 In-person meeting in Tokyo



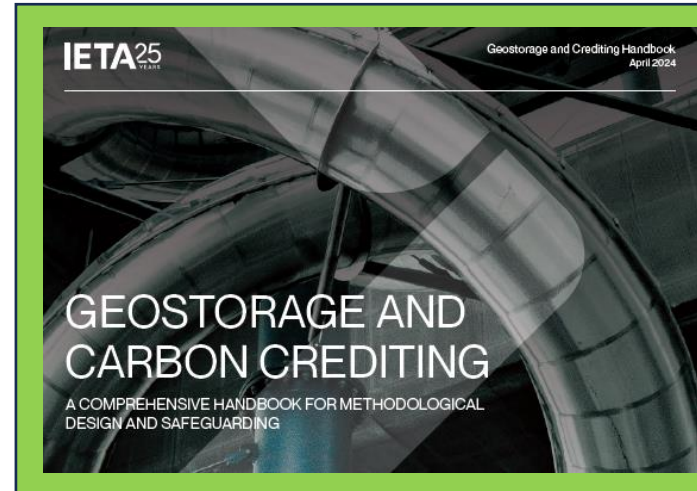
Asia Climate Summit, 24 October 2024

Asia Climate Summit 2025 (June 2025, Bangkok – TBD)

IETA for climate change by Carbon Markets



Economic model analysis



CCS High Level Criteria



Code of Best Practice for Digital Market



Integrity criteria



Meta registry